

二〇二五年度 適性検査

「現代の国語、言語文化」

(古文・漢文を除く)

解答番号

1

5

27

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

市民啓蒙^(けいもう)、あるいは教育への^アペシミズムに対して、公教育による参加民主主義の再生を夢見る^(注1)ジョン・デューイは『公衆とその諸問題』で^(注2)リッパマンに反論を加えている。この反論を詳しく紹介する必要はないだろう。それはSNS時代のメディアアリテラシー教育論でいまでも繰り返される理想だからである。

たとえば、今日の到達点を示す坂本旬・山脇岳志編『メディアアリテラシー——吟味思考を育む』である。同書にはメディアアリテラシー教育の先進国アメリカで活躍する著名な専門家のインタビューも多く掲載されている。ルネ・ホッブス「すべての子どもたちにメディアアリテラシー教育を」(第八章)、菅谷明子「すべての情報は再構成されている」(第一〇章)、アラン・ミラー「NLP (ニユース・リテラシー・プロジェクト) を創設した理由と「陰謀論」の脅威」(第一五章) などである。いずれも意欲的な教育実践の^(a)シシンを示しているが、メディアアリテラシー教育の難題はむしろその前提にあるのではないか。

果たしてメディアアリテラシー教育は「吟味思考」のできる市民の比率をどのくらいまで高めることができると想定すべきだろうか。フェイクニュースが大統領選にまで影響を及ぼす分断社会のアメリカを見る限り、そうした教育実践の効果について、私はデューイのように^(A)に⁽¹⁾なれない。

メディアアリテラシー教育論が^(A)に見えるのは、それが市民新聞の黄金時代に活躍した^(注3)ジョン・デューイの思想的系譜に連なるためでもある。人間の自発性を重視するデューイの教育論は、わかりやすく言えば新聞読者、あるいは教養市民の教育論である。だが、現在のメディアアリテラシーの困難性は、そうした新聞読者モデルが通用するメディア環境ではなくなったことではないだろうか。その点ではSNS普及の影響が大きい。SNSは個人の情報発信力を飛躍的に高めるとともに、レコメンデーション(推奨)システムで大量のパーソナライズされた情報伝達を可能にした。

いま現在、五〇代以上の教師(新聞読者)と一〇代生徒(ネットユーザー)の間で、メディア環境に対する認識ギャップは急

速に拡大している。「学校はいつも遅れてしまう」と、リップマンが一〇〇年前に発した言葉はますます有効なのだ。年配の教師が一九九〇年代に接した初期インターネットでは「^イ篤志的なモチベーションに基づいたコンテンツ発信」が中心であり、その主要な担い手は一般大衆ではなく専門家だった。当時、ユルゲン・ハーバーマスの市民的公共性論をベースに電腦公共性を語るこ^(注4)とが流行していたのもそのためだ。私が思い出すのは、公文俊平^(くもんしゅんぺい)『ネティズンの時代』^(b) network citizen が「智民^{ちみん}」と訳出されていたことだ。デジタル空間が大衆に開放された今日でも「智民」はメディアリテラシー教育の達成目標かもしれないが、さすがに「ちみん」を口にする人はいない。フェイクニュースに飛びつき陰謀論を信じる「痴民」と文字変換される可能性が高い。

そもそも、サイバーシティズンがどれほど吟味思考をマスターしたところで、情報の真偽がそう簡単に見分けられると考えるべきではない。

I 私たちが何かの専門家になるということは、別の何かの専門家ではないということである。あらゆる領域で情報の真偽を見分ける能力など、たとえば情報分析の専門家であっても個人的には持ち合わせていない。

だとすれば、フェイクニュースなどへの対応策として一般の人々に求めるべきは積極的(ポジティブ)なメディアリテラシーだけでよいのだろうか。むしろ、情報源を検討する判断基準として「ソ・ウ・カ・ナ」⁽²⁾即断しない・鵜呑みにしない・偏らな^うい・中だけ見ない」や「だ・い・じ・か・な」誰・いつ・事実・関係・なぜ」を生徒に教えることは必要だ。しかし、それでも見分けがつかない「あいまい情報」に直面した際に、どう対応すべきか、それも問われるべきではないだろうか。

そのとき多くの教師は「より広いクリティカルシンキング」を生徒に求めるのかもしれない。**II** しかし、それは誰にでもできる思考ではない。リップマンの時代より情報量が爆発的に増大した今日、ますます不可能な要求である。そのために受け入れる情報を減量する「デジタル・ダイエット」が^(b)ティショウ^(b)されるわけだが、食事制限の継続が誰にもできないからこそ、ダイエット産業は不滅なのではないか。

私は『流言のメディア史』を次の言葉で結んでいる。

「マスメディアの責任をただ追及していればよかった安楽な「読み」の時代はすでに終わり、一人ひとりが情報発信の責任を引

き受ける「読み書き」の時代となっている。こうした現代のメディア・リテラシーの本質とは、あいまい情報に耐える力である。この情報は間違っているかもしれないというあいまいな状況で思考を停止せず、それに耐えて最善を尽くすことは人間にしかできないことだからである」

この「耐える力」は、情報の真偽を見分けることが容易ではない、いや、ほとんど不可能である「あいまい情報」への向き合い方から生まれる。そして、私たちに必要なのはA Iが不得意とするあいまい情報に対するリテラシーである。その場合、むしろ消極的（ネガティブ）なメディアリテラシーが必要ではないのか、そう私は考えている。

Ⅲ

このネガティブ・リテラシー（消極的な読み書き能力）と同様な発想法は、精神医学者・はまきぎぼうせい 帚木蓬生の『ネガティブ・ケイパビリティ——答えの出ない事態に耐える力』でも確認できる。帚木はネガティブ・ケイパビリティを「**B** 証明や理由を求めずに、不確かさや不思議さ、(c) カイギの中にいることができる能力」と定義している。

この言葉は一九世紀英国の詩人ジョン・キーツがシェークスピアの天才的創作の秘訣ひけつにふれて最初に使用したものである。長らく忘れられていたこの概念は、二つの世界大戦に従軍した英国の精神分析学者ウィルフレッド・R・ピオンによって再発見された。

私たちはあいまい情報に直面した場合、このネガティブ・ケイパビリティを意識しない限り、早く「分かつろう」「理解しよう」とするのが普通である。ケイパビリティ（能力）とはポジティブ（積極的）であるのが普通である。帚木はその理由を「分かたがる脳」に求める。その正常な脳を快適状態に保つために、専門家は何ごとであれ標準化・体系化された手引書を用意する。医療現場ではまずマニュアルが参照される。なるほど、私が患者だとしても、病院では速やかに病名を指摘され、はっきり説明されることを望むはずだ。マニュアルを使わず「よくわかりませんね。経過をみましょう」と言われて、安心できる患者は少ないだろう。

同じように、前述した情報チェックリスト「ソ・ウ・カ・ナ」や「だ・い・じ・か・な」もメディアリテラシーのマニュアル

として使用されるだろう。ニュースのあいまいさに耐えることより、まず真偽をわかりやすく識別して安心することを私たちの脳は求めているからである。時間的にも精神的にも余裕のある人でなければ、より広くより深く思考するために判断を引き延ばすことはむずかしい。

だが、精神医療の現場では、病因を不明のままにしておく方が患者にとって望ましい場合も少なくない。何もなくても時間経過で自然にチユする場合もあり、主治医は不安な患者を「しかと見ている」ことが大切だと帚木はいう。N こうしたネガティブ・ケイパビリティの臨床例からメディアリテラシー教育が学ぶことは少なくないはずだ。専門家を育てる大学人として帚木の次の言葉は心にしみる。

「問題解決があまりに強調されると、まず問題設定のときに、問題そのものをC してしまう傾向が生まれます。単純な問題なら解決も早いからです」

そうであれば、情報分析においても早期の問題解決能力を強調すべきではない。むしろ、イエス／ノーの世論調査やON／OFFのデジタル思考への抵抗力を高めること、あいまい情報の中で事態に耐える人間力こそが、AI時代に求められるリテラシーだからである。

このネガティブ・リテラシーのクリティカル・シンキング（吟味思考）を私は「耐性思考」と呼んでいる。それは私が輿論（公的意見）と世論（私的心情）を区別する基準として「時間耐性の強度」を挙げているためだ。その限りでは私はD 調査の民意よりも専門家の意見により大きな関心を抱いている。もちろん、大衆の感情と専門家の意見をすりあわせ、E をF にとめあげることが、成熟したデモクラシーには求められる。V その意味でも、デモクラシーの理想型は「G 主義」であり、デモクラシーが大正期にそう訳されていたことを心に刻んでおきたいものである。

（佐藤卓己「『ネガティブ・リテラシー』の時代へ」より）

- (注1) ジョン・デューイ——一八五九～一九五二年。アメリカ合衆国の哲学者。
- (注2) リップマン——一八八九～一九七四年。アメリカ合衆国のジャーナリスト。
- (注3) 市民新聞——市民が主体となって情報発信に携わる形態をとる新聞。
- (注4) ユルゲン・ハーバーマス——一九二九年～。ドイツの社会哲学者、政治哲学者。

問
1

傍線部(a)～(d)と同じ漢字を含む語を、次の中からそれぞれ選びなさい。

解答番号は、(a) 1、(b) 2、(c) 3、(d) 4。

(配点8点)

(a) シ
シ
ン

1

- | | | | | |
|---|---|--|---|---|
| ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| シ
ン
シ
的
な
振
る
舞
い
を
す
る。 | 被
害
を
シ
ン
シ
ョ
ウ
棒
大
に
訴
え
る。 | 国
王
が
シ
ン
カ
に
命
令
す
る。 | シ
ン
シ
ン
氣
鋭
の
作
家
が
登
壇
す
る。 | 役
所
で
書
類
を
シ
ン
セ
イ
す
る。 |

(b) テ
イ
シ
ョ
ウ

2

- | | | | | |
|--|---|---|--|--|
| ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| フ
シ
ョ
ウ
な
が
ら
師
の
代
理
を
務
め
る。 | 博
士
の
シ
ョ
ウ
ゴ
ウ
を
授
与
さ
れ
る。 | 卒
業
式
で
校
歌
を
セ
イ
シ
ョ
ウ
す
る。 | 戸
籍
シ
ョ
ウ
ホ
ン
を
取
り
寄
せ
る。 | 文
献
資
料
を
シ
ョ
ウ
リ
ョ
ウ
す
る。 |

(c)

カイ
ギ

3

- ① 反対派をカイジユウする。
- ② ヤツカイな問題が生じる。
- ③ 厳しいカイリツを守る。
- ④ カイイな現象を目撃する。
- ⑤ 大雨で川がケツカイする。

(d)

チ
ユ

4

- ① 部長をケイユして談判する。
- ② 政界と財界がユチャクする。
- ③ 友人からユカイな話を聞く。
- ④ 祖母のセツユが心に残る。
- ⑤ 一瞬のユダンで敗退する。

問2 傍線部ア「ペシミズム」・イ「篤志的な」の本文中における意味として最も適当なものを、次の中からそれぞれ選びなさい。

い。

解答番号は、ア 5、イ 6。

(配点6点)

ア ペシミズム

5

- ⑤ ④ ③ ② ①
- 功利主義 悲観主義 原理主義 虚無主義 理想主義

イ 篤志的な

6

- ⑤ ④ ③ ② ①
- 試行錯誤を繰り返すような 経済的に成功するための 慈善の精神による 社会変革を望んでいる 先進思考を持った

問3

空欄 A

〈 C

に入る最も適当な語を、次の中からそれぞれ選びなさい。ただし、二つある

A

には同じ語が入る。

解答番号は、A 7、B 8、C 9。

(配点9点)

A 7

① 建設的

② 客観的

③ 恣意的

④ 先進的

⑤ 楽観的

B 8

① 早晩に

② 尚早に

③ 早成に

④ 急場に

⑤ 性急に

C 9

① 数値化

② 平易化

③ 明文化

④ 定型化

⑤ 具体化

問4

空欄 D

〈 G

には、「輿論」・「世論」のいずれかが入る。その組合せとして最も適当なものを、次の中から選びなさい。

い。解答番号は、10。

(配点4点)

① D D E E F G

世論

輿論

世論

輿論

輿論

輿論

② D D E E F G

輿論

世論

輿論

輿論

輿論

③ D D E E F G

輿論

世論

輿論

世論

世論

④ D D E E F G

世論

輿論

世論

輿論

輿論

⑤ D D E E F G

世論

輿論

世論

世論

世論

問5

次の文は本文の一部である。どこに入れるのが最も適当か。本文中の I } V の中から選びなさい。

11。

(配点4点)

それは情報をやり過ぎ、不用意に発信しない力である。

①

I

②

II

③

III

④

IV

⑤

V

問6

傍線部(1)「メディアリテラシー教育の難題」とあるが、これを筆者はどのようなことだと考えているか。その説明として最も適当なものを、次の中から選びなさい。

解答番号は、12。

(配点7点)

- ① デューイの主張に基づくメディアリテラシー教育では、「吟味思考」のできる市民の割合を高められないこと。
- ② メディアリテラシー教育を論じる現代の論客の多くが、デューイによるリップマンへの反論に依拠していること。
- ③ リテラシーが問題となるメディアの担い手が、一定の教養を持つ市民の範囲を超えて以前より広がっていること。
- ④ かつては新聞を読み解く能力がその議論の対象とされていたが、多様なメディア教育を論じる必要がでてきたこと。
- ⑤ デューイやリップマンが市民教育を論じていた時代に存在しなかった、SNSが現代メディアを支配していること。

問7

傍線部(2)「一般の人々に求めるべきは積極的(ポジティブ)なメディアリテラシーだけでよいのだろうか」とあるが、これに関する筆者の考えを説明したものとして適当でないものを、次の中から選びなさい。

解答番号は、13。

(配点6点)

- ① 見聞きした情報に対して、その正しさを巧遅に見分けようとする態度は、ポジティブなメディアリテラシーと言える。
- ② 受け入れる情報量そのものを減らすことで、あいまい情報に接しないようにすることの有効性に疑義を示している。
- ③ マスメディアだけが情報発信者だった時代の終焉^{しゅうえん}が、メディアリテラシーとして求められる新たな姿勢をもたらした。
- ④ 多数のあいまい情報に耐え、その中から正しい情報を見出す^{みいだ}ために最善を尽くすのは人間が持つ特有の能力である。
- ⑤ 情報の真偽を早く知りたいという人間の本性としてごく自然な態度に抗する能力が、現代において求められている。

問8

本文中で波線を付した語のうち、筆者の考え方に即して他と性質が異なるものを、次の中から選びなさい。

解答番号は、14。

(配点5点)

- ① ジョン・デューイの思想的系譜
- ② 標準化・体系化された手引書
- ③ 情報チェックリスト
- ④ デジタル思考への抵抗力
- ⑤ 世論(私的心情)

問9

本文の内容に合致するものを、次の中から選りなさい。

解答番号は、15。

(配点7点)

- ① あらゆる情報をあいまいなものとみなし、その真偽を疑ってかかるネガティブな姿勢が現代では求められている。
- ② 筆者がかつてSNS時代のメディアリテラシー教育の理想と考えていたデューイの主張も、既に古びてしまった。
- ③ メディア発の情報を受信する人があらゆる情報の真偽を見分ける能力を身につけることは、原理的な限界がある。
- ④ 患者の治療すなわち問題解決能力を強調することは、精神医療の現場では専門家の姿勢として問題視されている。
- ⑤ メディア環境に対する世代間のリテラシー差の拡大が、フェイクニュースの流布を許す状況の原因となっている。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。なお設問の都合で本文の段落に 1 ～ 9 の番号を付してある。

1 ごみ処理有料化とは、家庭ごみ（家庭系一般廃棄物）の収集処理費用の一部を、その排出者に手数料として負担させる制度のことを言う。かつてはごみの排出量と無関係に一定額を徴収する定額制の有料化もあったが、現在はごみ処理有料化と言えば通常、排出量に応じた従量制の有料化を指す。東洋大学名誉教授の山谷修作氏の調査によると、従量制有料化の導入状況は人口カバー率では約43%であるが、市区町村数で見ると約66%の市区町村で実施されている（2023年4月時点）。従量制有料化の目的には3R推進^{（注1）}だけでなく、負担の公平化も挙げられる。

ア 従量制有料化では、ごみの排出量に応じた負担を課すので、排出量の少ない人は多い人と比べ負担が軽くなる。逆に、排出量の多い人は少ない人と比べ負担が重くなる。有料化された市町村では、市町村が指定したごみ袋（指定袋）を、袋の製造・流通原価に手数料を上乗せした価格で販売し、その袋で出されたごみだけを収集するというのが一般的だ。指定袋の平均的な価格は大袋（容量40～45リットル）1枚あたり30～40円台で、平均的な相場としては1リットルあたり1円前後といったところである。一方で、1枚あたり80円以上の価格に設定している自治体もある。焼却ごみ（燃えるごみ）や埋立^{うめたて}ごみ（燃えないごみ）を有料化または少し高めの料金設定にし、資源ごみを無料収集または少し安めの料金設定にして、3R促進のインセンティブを図るのが一般的である。

2 こうした手数料は実際のごみ収集にかかる費用と比べると、どれくらいになるのだろうか。ここでは基本的に家庭ごみが対象となる収集運搬費に着目して概算する。すなわち、焼却・埋立などの処理費用は含まれない。環境省環境再生・資源循環局廃棄物適正処理推進課によると、職員の人件費と車両購入費を除く、収集運搬に係る経費^{（a）}は年間4712億5600万円である（2021年度）。これを同じ年度の一般廃棄物の計画収集量で割ると、トン^{（注2）}あたり1万3216円と計算される。環境省が一般廃棄物の排出及び処理状況等の調査で用いているごみの比重（1m³あたり0.3トン）を利用して、容積単位で計算すると、1リットルあたり約4.4円となる。このことから、家庭ごみの収集運搬に係る費用は指定袋の価格の少なくなると

袋の購入費用の方が大きいからだ。もしBより多く削減すれば、ごみを減らすことで失われる追加的な便益（ごみ削減の限界費用）

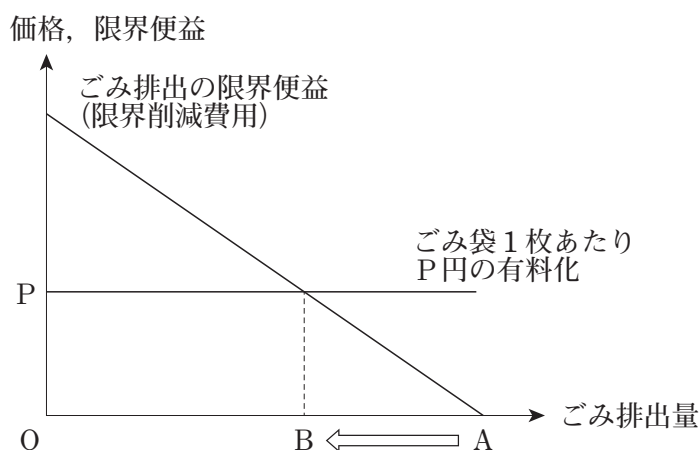


図1 有料化によるごみ減量効果

も4～5倍程度と推計される。逆に言えば、袋価格は実際の経費のせいぜい20～25%程度に抑えられているということだ。前述のとおり、ここでは人件費・車両購入費、また焼却・埋立処分に係る費用を除いているので、実際にはもっと低く抑えられていると考えられる。

3 イ、ごみ袋は指定されているものの、手数料が上乗せされず、袋の製造・流通原価程度の比較的安い価格で販売されている場合は単に「指定袋制」と呼び、有料化とは区別される。

4 ここで簡単な図を使って、有料化に期待される効果を無料収集の場合と比較して見てみよう。図1の右下がりの直線は、ごみの排出を1単位増やした場合に得られる追加的な便益（限界便益）を表す。一方、この直線を逆向き（右から左）に見れば、これはごみの排出を減らした場合に失われる追加的な便益を表すので、ごみ削減に係る追加的な費用（限界削減費用）と捉えることもできる。いま私たちは **I** ので、ごみ排出による追加的な便益が得られない水準まで最大限ごみを排出する。すなわち、ごみの排出量はAとなる。ここで、ごみ袋1枚あたりP円の有料化が行われた場合、どうなるだろうか。私たちはごみを排出する限り、ごみ袋1枚あたりP円の費用がかかるので、少しでもごみを減らして袋の購入枚数をセツヤクしようとするだろう。理論的には、ごみを減らすことで失われる追加的な便益（あるいはごみ削減の限界費用）が **II**。これによりBまでごみの排出を減らすだろう。なぜならごみを排出することで得られる便益よりも、ごみ

用) がごみ袋の価格を上回り、損をする。したがって、Ⅲ。

5 では、ごみ処理有料化による実際の減量効果について見てみよう。先述の山谷氏が2018年に実施した、2000年度以降に有料化を始めた155の市を対象にした調査によると、1リットル1円相当の有料化の場合、有料化5年目の家庭ごみの排出量(資源ごみ含む)は13・8%減、焼却・処分ごみの量(資源ごみ除く)は18・8%減となった。同調査では、有料化の金額が高い市ほど、減量効果が大きいことも示された。やや古い分析結果になるが、筆者も以前、有料化による減量効果を計量経済学的手法を用いて分析している。山谷氏の調査が実際の排出量等のデータをそのまま比較分析したのに対し、筆者の分析では分別品目数や収集頻度など排出量に影響を与えると予想される他の要因の影響を取り除いた点で違いがある。その分析結果によると、有料化市町村では有料化していない市町村と比べ、排出量(資源ごみ含む)は8・4%減、焼却・埋立量(資源ごみ除く)は11・2%減となり、やはり有料化による減量効果が確認された。ここで焼却・埋立ごみ量の削減が排出量の削減より大きくなるのは、ごみ全体の排出削減に加えて、焼却・埋立ごみから資源ごみへの分別が促進されることを示している。また有料化料金が上昇すること、排出量、焼却・埋立量ともに減少することも明らかにされた。

6 一方、有料化にはいくつかの課題が指摘されてきた。一つは有料化後、年月が経過することで、有料化の効果が失われる「X」への懸念である。確かにそれほど高額の手数料でなければ、時間の経過とともに費用負担感が弱まり、ごみを削減しようというインセンティブは弱まるかもしれない。しかし、これについては過剰に心配する必要はないことを過去の研究成果が示している。例えば、先述の山谷氏による調査結果では、いずれの価格帯においても有料化導入翌年度よりも有料化5年目の減量効果が大きいことが示されている。また創価大学教授の確井健寛氏^{うすい たけひろ}による分析でも、X 効果はわずかに存在するものの、長期的な減量効果はほとんど失われないこと、また分別促進効果は有料化後、年数を経るに従いむしろ強まることが示されている。もしX が確認された場合、経済学的な解決法は指定袋の値上げである。実際、有料化されてからの年月が比較的長い市町村の中には、値上げに踏み切るところもある。

7

もう一つの課題は、有料化に伴うごみの不法投棄や有料化していない近隣市町村へのごみの域外流出についての懸念である。これは例えば有料化後、コンビニや駅・サービスエリア等のごみ箱に家庭ごみを持ち込まれたり、有料化していない隣町のごみ集積所にごみが捨てられたりするケースが考えられる。有料化後、自治体が不法投棄の監視等を増やした結果、不法投棄の発覚が増えたような事例もあるが、不法投棄等が起こらないようにするための対応は考えられる。例えば、コンビニ等では店外にあったごみ箱を店内に移動したり、サービスエリア等では監視カメラを設置したりするような対応が行われている。域外流出の防止策としては、通勤や通学等で往来の多い隣接する市町村では、共同で有料化を実施するといった方法も考えられる。また、不法投棄や域外流出を抑制し、同時に資源ごみの回収を増やすために、先述のように資源ごみの収集を無料にしたり、焼却・埋立ごみよりも安い価格設定にしたりすることも効果的だ。

8

有料化はこれまでなかった経済的負担を一方的に課すことにもなるので、できるだけ多くの住民の理解を得ることも重要だ。そのためには住民説明会等を積極的に開催し、住民への周知と丁寧な説明が求められる。また収集費用の増加にリユウイしつつも、高齢者等のごみ出し支援、ごみ集積所の増加、そして収集運搬車の通行に支障がない地域では戸別回収を導入するなどして、収集サービスの向上を図ることも、住民の負担感を緩和する上で有効だ。加えて注意が必要なのが、所得に占める税・課徴金の負担割合が低所得者に対して **Y** に大きくなる「逆進性」の問題だ。一般に所得が平均的な世帯の半分だからといって、ごみの排出も半分になるわけではない。筆者が行った分析では、平均所得が1%減少しても、ごみの排出量は0.3%程度しか減らない。有料化によるごみ収集手数料の負担は通常、所得とは無関係に発生するので、同じ手数料でも高所得者より低所得者の負担感がより大きくなる傾向にある。そこで例えば、生活保護受給世帯には無料で指定袋を交付するなどの措置が考えられ、実際そうした対応をとる自治体もある。

9

以上のように、ごみ処理有料化にはいくつかの課題が指摘されてきたが、その対応策も検討・実施されている。

（笹尾俊明『循環経済入門——廃棄物から考える新しい経済』より）

(注1) 3R

ごみを減らすための三つの取り組みである、Reduce(ごみの量の削減)、Reuse(製品の再使用)、Recycle(資源の再利用)の頭文字を取った語。

(注2) トンあたり1万3216円と計算される――

粗大ごみの収集は別途有料化されている自治体がほとんどので、その部分は本来差し引いて計算すべきだが、粗大ごみの手数料収入や収集費用だけを求めるのは困難なため、ここでは粗大ごみも含めて計算している、と筆者により注が付されている。

問
1

傍線部(a)～(c)と同じ漢字を含む語を、次の中からそれぞれ選びなさい。

解答番号は、(a) 16、(b) 17、(c) 18。

(配点6点)

(a)
イタク

16

- ① 新しくタクチを造成する。
- ② タクエツした技能を発揮する。
- ③ ジュンタクな資金を運用する。
- ④ 広大な湖沼をカンタクする。
- ⑤ クツタクのない笑顔を見せる。

(b)
セツヤク

17

- ① 衣食足りてレイセツを知る。
- ② セツソクな判断を避ける。
- ③ 国家間でセツショウを重ねる。
- ④ 自然のセツリに反する。
- ⑤ 敗北のセツジョクを果たす。

(c)
リュウイ

18

- ① ガリュウで技術を習得する。
- ② 船を岸にケイリュウする。
- ③ 趣味でセンリュウを詠む。
- ④ 画像のリュウシが粗い。
- ⑤ 科学のリュウセイに努める。

問2

空欄

ア

イ

に入る最も適当な語を、次の中からそれぞれ選びなさい。

ただし、同じ語を二度使ってはならない。

解答番号は、ア

19

、イ

20

。

(配点6点)

- ① むろん ② 未だに ③ やにわに ④ たまさか
 ⑤ なお ⑥ むしろ ⑦ なぜなら ⑧ 果たして

問3

傍線部「インセンティブ」の本文中における意味として最も適当なものを、次の中から選びなさい。

解答番号は、

21

。

(配点3点)

- ① やる気を起こさせるような動機づけ
 ② 社会で理解を得られるような取り組み
 ③ 積極的に物事がある方向に導く力
 ④ 成果をあげたくなる魅力的な選択肢
 ⑤ 状況や問題に対する将来的な見通し

問4

空欄

I

Ⅲ

Ⅰ

Ⅱ

Ⅲ

Ⅳ

Ⅴ

Ⅵ

Ⅶ

Ⅷ

Ⅸ

Ⅹ

Ⅺ

Ⅻ

Ⅼ

Ⅽ

Ⅾ

Ⅿ

ⅰ

ⅱ

ⅲ

ⅳ

ⅴ

ⅵ

ⅶ

ⅷ

ⅸ

ⅹ

解答番号は、Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵ、Ⅶ、Ⅷ、Ⅸ、Ⅹ、Ⅺ、Ⅻ、Ⅼ、Ⅽ、Ⅾ、Ⅿ、ⅰ、ⅱ、ⅲ、ⅳ、ⅴ、ⅵ、ⅶ、ⅷ、ⅸ、ⅹ。

(配点15点)

I

22

- ① ごみ排出が無料である限りは、ごみ削減は個々人の取り組みに委ねられる
- ② 有料であろうとなかろうと、ごみ排出という便益を手放すことはできない
- ③ ごみを無料で排出できるとすると、便益が最大になるまでごみを排出する
- ④ ごみ排出が有料化になった場合、購入したごみ袋を全て使い切ろうとする
- ⑤ 収入や居住地域といった要件とは関係なく、等しくごみ排出は必須である

II

23

- ① ごみ袋の価格を下回る限りは、ごみを減らすのが合理的だ
- ② ごみ袋の価格を上回るならば、ごみを減らす方が理屈に合う
- ③ ごみ袋の価格を下回らない限り、ごみを減らすのは当然だ
- ④ ごみ袋の価格を上回らないのに、ごみを減らすのは不自然だ
- ⑤ ごみ袋の価格に反映されるならば、ごみを減らすのは必然だ

III

24

- ① 極力Aに近い削減行動が合理的といえる
- ② Bより多く削減するのは合理的ではない
- ③ Bをやや上回るごみ削減を目指すようになる
- ④ Pを上昇させることが得策とはいえない
- ⑤ P円を維持しBをより右に移動させるのがよい

問5

空欄

X

・

Y

に入る最も適当な語を、次の中からそれぞれ選びなさい。ただし、三つある

X

には同じ語が入る。

解答番号は、X 25、Y 26。

(配点6点)

X

25

①

リペア

②

リバウンド

③

リカバー

④

リターン

⑤

リマインド

Y

26

①

相対的

②

瞬間的

③

画一的

④

間接的

⑤

比例的

問6

本文を読み終えた高校生が、本文の展開や内容について話し合っている。本文に即した説明として適当でないものを、次の中から選びなさい。

解答番号は、27。

(配点8点)

① Aさん

1 段落では、「ごみ処理有料化」とはごみ袋を有料化するという「従量制」であることを示しています。本文の議論の前提として読者の認識を一致させているのですね。

② Bさん

2 段落では、9 段落でいう「いくつかの課題」の一つが挙げられています。実際のごみ収集費用はごみ袋を有料化することでは賄いきれていないのですね。

③ Cさん

4 段落では、ごみ収集の有料化が働くシステムを簡単な図を使い、まずは理論的に説明することでこれ以降の具体的なごみ削減の議論につなげています。

④ Dさん

ごみ処理有料化における課題の一つとして6 段落で挙げられている効果の減退は、深刻度は低いものですよ。かといって筆者はこれを放置せずその解決策も示しています。

⑤ Eさん

本文は冒頭から、ごみ処理有料化がもたらすごみ削減への効果やその課題を述べており、7・8 段落では、課題の一つとして、有料化により派生する社会問題に議論を展開しています。